

## 中国地方観光情報 第八弾

### 山口県編②



前回に引き続き、山口県の観光情報をお伝えします。山口県の観光では、なんといつても歴史探訪がお奨めです。栄華を極めた平家の終焉の地、壇ノ浦。日本人なら誰でも知っている栄枯盛衰の物語です。毛利輝元の治世に思いをはせながら歩く街道筋では、随所に当時の面影を発見するところでしよう。そのほか、県内各地に残る歴史を動かした傑物たちの足跡に、山口の深い魅力を感じて頂きたいと思えます。

#### 壇ノ浦の戦い

山口県を語る上で欠かせないのが、壇ノ浦の戦いです。関門海峡は古くから大陸との交易の要衝でした。平家は、現在の下関市にある彦島に拠点を構え、瀬戸内海の制海権をにぎり、大陸との貿易を独占しました。平家の繁栄を支えたのは、平清盛の父・忠盛が始めた交易がもたらす膨大な資金だったのです。

京の都を追い落とされた平家は、瀬戸内海の拠点を転々とし、最後に彦島にたどり着きます。源氏と平家が壇ノ浦で雌雄を決したのは1185年のこと。水軍力に優れた平家。陸戦を得意としていた関東武者の源氏。海上戦においては絶対的に有利だった平家が負けたことは歴史上、注目に値する出来事です。

両軍の戦力を比べると、平家が500艘、源氏が800艘だったといわれています。戦いが始まった早朝は、潮流に乗った平家が有利に攻めていたのですが、昼近くに潮流が変わり始めると次第に接近戦となってゆきました。その機に乗じ、源義経が平家軍の舵取りを射殺するという奇襲を行い、戦況を逆転させました。平家は、本来、将軍が乗る御座船を囷として使い、源氏の裏をかこうとしていたのですが、その囷に殺到する源氏の船を見、平家方から300艘が寝返るといふ事態が起こります。

平家が劣勢となった原因は、多くの歴史家により分析されて来ましたが、代表的な意見として、一つは、昼前の潮流の変化を利用できなかったこと。もう一つは、当時の戦いの「掟」に縛られていた事が挙げられています。当時、合戦において非戦闘員である舵取りを射殺することはタブーとされてきました。しかし、義経は、それを実行。平家は、決死の場面で非情に徹することができませんでした。

「平家物語」では、平家きつての武将、平教経に追い詰められた義経が「八艘飛び」で逃れる場面や、敗戦を覚悟した平清盛の正妻二位の尼が、源氏が狙う三種の神器を身につけ、「海の底にも都はあります」と8歳の安徳天皇を抱いて最後を遂げる場面などが知られています。

平知盛をはじめ主な武将は一門の最期を見届けると海に身を投じ、平家の総帥、宗盛親子は捕虜となりました。「平氏にあらざんば人にあらざ」とまで言わしめた平家一族の繁栄は関門海峡に沈んでいったのです。

### 歴史古道と萩往還

江戸期の史跡も県内には多く残っています。1600年の関ヶ原の戦いで西軍を指揮した毛利輝元は、敗戦後、中国地方7カ国から長門、周防の2カ国に減じられました。新しい城下は萩におかれ、輝元と家臣は広島から移り住むことになったのです。領地が大幅に減らされたことで、毛利家の収入は激減しました。家臣に与える知行も扶持も足りない、にも関わらず、多くの家臣は輝元の下を離れませんでした。武士達は、生活のため藩内を開墾してゆきます。このような事情もあり、江戸時代の長州藩では、藩内の整備が進んでゆきました。

その中でも有名なのが、萩往還です。萩と瀬戸内側の三田尻（防府）を結ぶほぼ一直線の幹線道路。その長さは約53kmにもおよびます。江戸への参勤交代につかう御成道として整備されたので、主要な地域には一里塚が築かれ、宿駅も建てられました。連絡網を円滑にするための人馬継立制もこの時期に整えられています。

他にも、萩から赤間関（下関）を結ぶ3本の道も敷かれました。日本海沿岸をたどる北浦街道、長門を経て南下する北道筋、秋吉台を経て山間部を南下する中道筋を総称して赤間関街道といいます。北浦街道は、藩主のお国廻りの視察道であり、海岸沿いの生活道路でもありました。終着点の赤間関は九州への入り口、大陸との交通の要衝として賑わい、朝鮮通信使も滞在するなど、文化交流の地として発展しました。

これらの街道をはじめとする、江戸期を通じて行われた様々な事業が、長州藩の実力を培い、近代化へ転換を早めたともいわれています。現在、萩往還では、往時の名所を語り部ガイドと共に歩くウォーキングツアーが開催されています。幕末、吉田松陰、高杉晋作、木戸孝允、坂本龍馬らが日本の明日を拓く決意で往来したこの街道。当時に思いをはせながら歩いてみたいものです。

### 岩国市のシロヘビ

今年巳年。蛇にゆかりあるのが岩国市です。天然記念物のシロヘビは岩国市だけに生息しています。シロヘビはアオダイショウの突然変異といわれ、世界的にも珍しい存在です。そのため、大正13年に生息地が国の天然記念物の指定を受け、その後、学術的に貴重なことから昭和47年にはシロヘビが国の天然記念物となりました。シロヘビはおとなしく人に危害を加えることはなく、昔から開運の守り神といわれてきましたが、生息地一帯の都市化が進み、昭和



明治・大正・昭和のロマンを乗せて SL「やまぐち」号

40年代には、自然界のシロヘビが少なくなってゆきました。現在では、岩国市が保護施設を設けて人工飼育を行っています。吉香公園と今津町天神山の観覧施設でシロヘビの姿を見ることが出来ます。

そのほか、昭和54年に復活したSLの運行（津和野―新山口間）や、下関の唐戸市場など、山口県には魅力的な観光スポットがたくさんあります。ゴールデンウィークの行楽や夏休みの家族旅行などに、山口県を選んでみてはいかがでしょうか。

山口県大阪事務所

大阪市北区梅田2の4の13

阪神産経桜橋ビル2階

06・6341・0755

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞